

### 令和7年度教育・保育活動に係る保護者評価結果について

幼稚園の運営や幼児教育の質の向上を図るため、12月上旬、在園児保護者を対象に「教育・保育活動に係るアンケート」をお願いしたところ、134名の回答をいただきました（回答率90.54%）。

この度、その集計作業が終わりましたので、結果をお知らせします。ご協力に心から感謝申し上げます。

#### 1 設問別の評価平均と昨年度との比較（評価値の満点は4点）

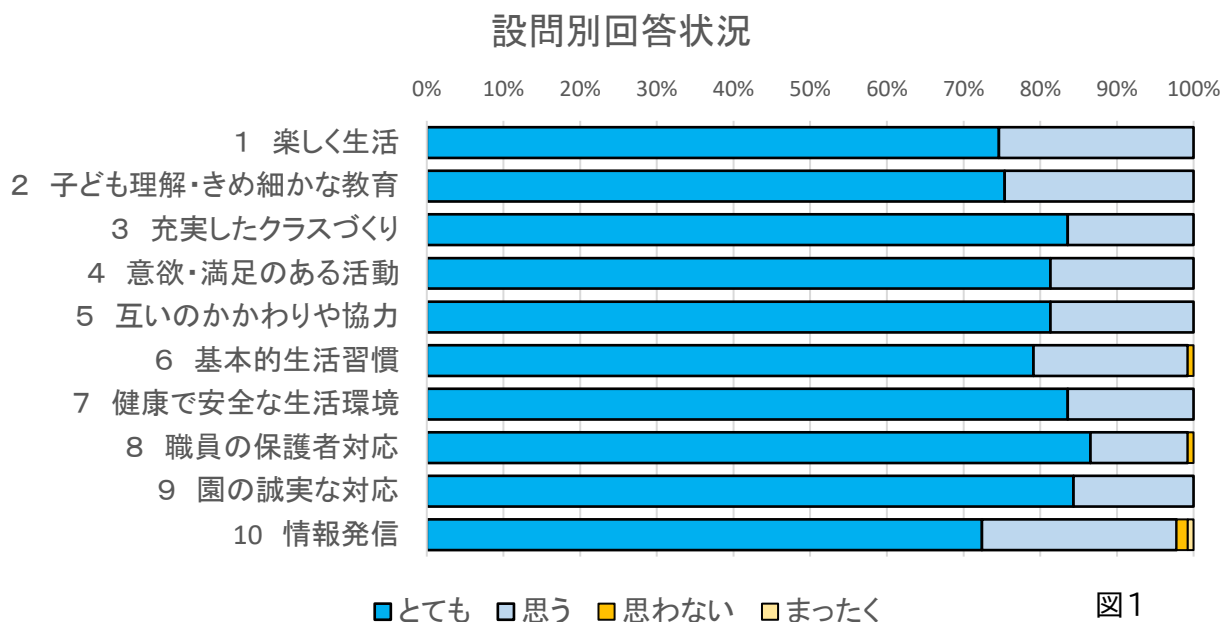
表1

設 問 (評定) 4 とても思う 3 思う 2 思わない 1 まったく思わない		評価の平均 ( )内は昨年
1	お子さんは、幼稚園に楽しく通っていると思いますか。	3.75→ (3.76)
2	担任は、子ども一人一人を理解するように努め、きめ細かな教育・保育を行っていると思いますか。	3.75↘ (3.79)
3	教職員はいろいろなふれ合いや保育活動の中で、子どもとの信頼関係を築き、充実したクラスづくりに努めていると思いますか。	3.84↗ (3.80)
4	日常の教育・保育、様々な活動や体験、諸行事を通して、子どもは意欲的に活動し、満足感を味わうことができる教育・保育を行っていると思いますか。	3.81↗ (3.76)
5	幼稚園は、子どもたちが遊びなどを通して互いに関わり合いを持ち、協力し合える教育・保育を行っていると思いますか。	3.81↗ (3.74)
6	挨拶や人の話をよく聞くこと、集団としてのルールなど、身に付けてほしい基本的生活習慣を培うよう努めていると思いますか。	3.78↗ (3.75)
7	幼稚園は、楽しい雰囲気の中で、子どもが健康で安全な生活が送れるよう環境づくりに努めていると思いますか。	3.84↗ (3.76)
8	教職員は、言葉遣いや身だしなみに気をつけて子どもや保護者の皆様に対応していると思いますか。	3.86↗ (3.83)
9	幼稚園は、子どものことについての保護者からの相談ごとなどに対し、誠実に対応していると思いますか。	3.84↗ (3.74)
10	連絡ノート・園だより・ホームページ・メールなどにより園や園児の様子、感染症やバス運行などの連絡について情報発信がされていると思いますか。	3.69↗ (3.56)
総 合 評 価		3.80↗ (3.75)

設問別の評価平均は以下のようになりました。

10項目のうち8項目で昨年の評価値を上回ったものの、全体的に昨年とほぼ同様の結果となりました。数値に有意な差は認められませんが依然として高い評価値を示しています。

各設問をグラフで表すと図1のようになります。



どの設問についても高い評価となりました。特に「5 互いの関わり合いや協力し合える教育・保育」「7 健康で安全な教育環境」「9 園の誠実な対応」「10 情報提供」は、昨年度と比較し評価が上昇しました。

設問5の評価値が伸びたことの要因に、職員の資質向上が上げられます。様々な研修をとおして、園児の自主性や主体性、個性を伸長させる取り組みがなされ、互いの良さを認め話し合い協力する心を醸成したことが挙げられます。

設問7は避難訓練の質の向上、敷地フェンスの高化による安全性の確保、ボルダリングや園庭の整備による「遊び環境」の改善、太陽光パネルの設置による災害対応の強化などが評価されたものと思われます。設問9では日常における保護者面談や関係機関との連携による相談対応が要因と思われます。

設問10については、今年度も同様に10の設問中10番目の評価値でした。しかし、今年度評価値の伸び率が最も高くなりました。保護者向けお便りの配布はもとより、InstagramやYouTubeによる動画配信、ホームページの毎日の更新などに加え、非常・災害時や感染症の状況などの情報提供、通園バスの運行に係る情報など、メールを活用して適時、迅速な情報提供がなされたこと、担任からの電話による保護者へのこまめな連絡・報告なども要因の一つとなっていると思われます。

一方、設問2は昨年度の数値と比べ、若干評価値が下がったものの有意な差はないと考えており、昨年とほぼ同様の結果となっています。

## 2 直近4年間の設問別評価の全体的傾向（評価値の満点は4点）

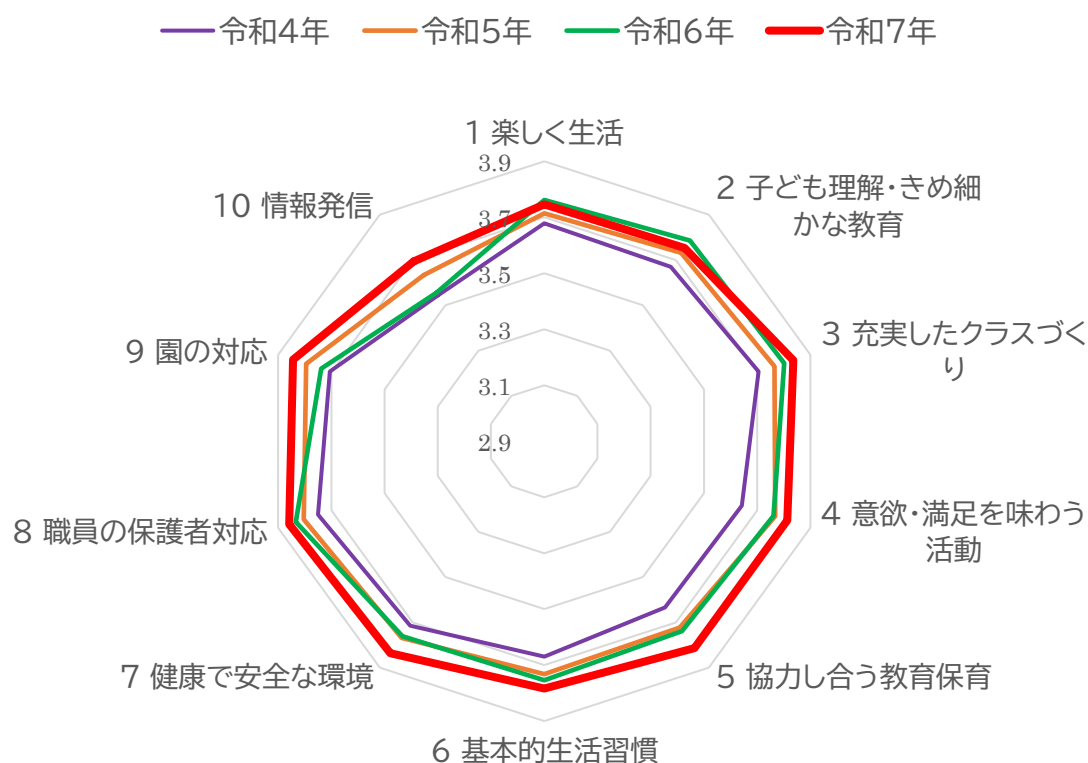


図2

図2は、直近4年間の設問別評価の全体の傾向や特徴を示しています。

いずれも高い評価値となっており、年々グラフの広がり（面積）が大きくなるとともに、各設問の偏りも少なくなっているのが見て取れます。

設問10が他の設問と比較してやや低い傾向にありますが、ここ数年、前述したとおり様々な手段を講じてこまめな情報発信をすることによって、年々改善が図られています。

## 3 直近4年間の、総合評価に係る評定割合の傾向

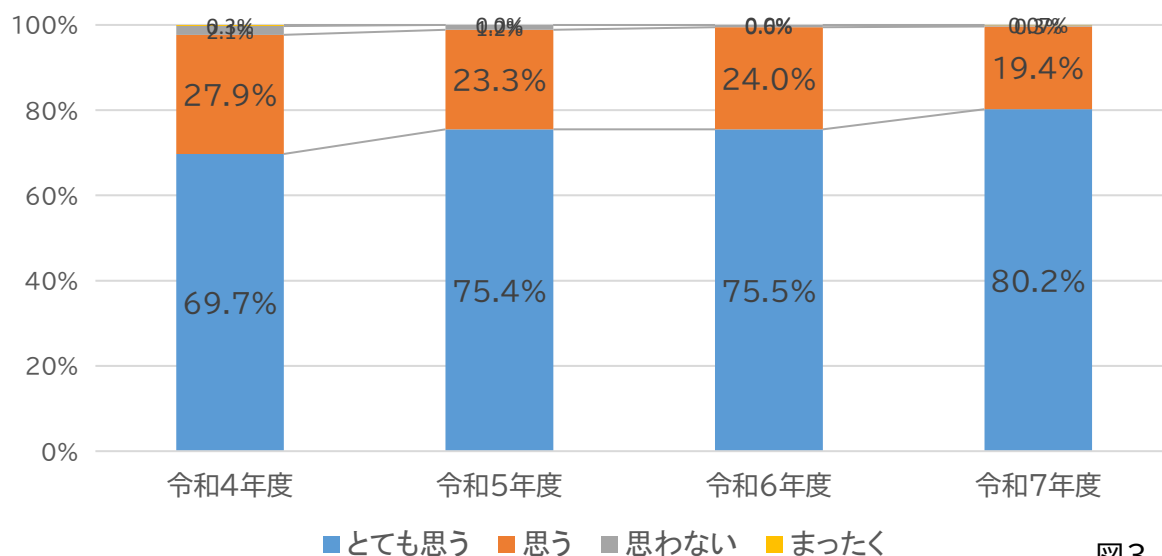


図3

図3は、令和4年度から7年度までの全体評価の評定割合の傾向を示しています。

年々「とても思う」の割合が増加するとともに、この4年間で10ポイント以上増えました。それと反比例するように「思う」の割合は減っています。また、「思わない」「まったく思わない」の割合も減少し、今年度は1%に満たない状況となりました。

#### 4 肯定的評価と否定的評価の割合

令和元年度から、それまで5段階評定だったものを4段階評定に変更しました。「どちらでもない」という曖昧な評定を排除し、肯定的か否定的かを明確にすることで、園の運営や活動の改善に繋がりたいと考えたからです。

ここでいう「肯定的評価」とは、「とても思う」「思う」を合わせた評価、「否定的評価」とは、「思わない」「まったく思わない」を合わせた評価です。

図4はその割合を示しています。ここでも年々肯定的評価は上昇し、昨年度とほぼ同程度の水準となりました。

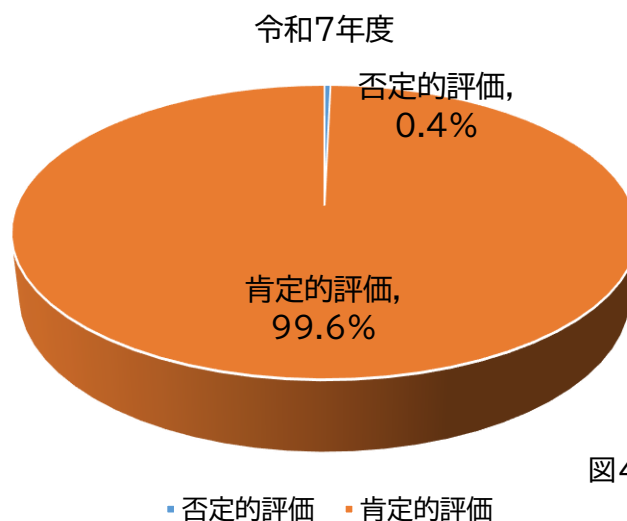


図4

過去の結果	肯定的評価	否定的評価
令和6年度	99.4%	0.6%
令和5年度	98.8%	1.2%
令和4年度	97.6%	2.4%

#### 5 同一保護者による総合評価の推移（評価値の満点は4点）

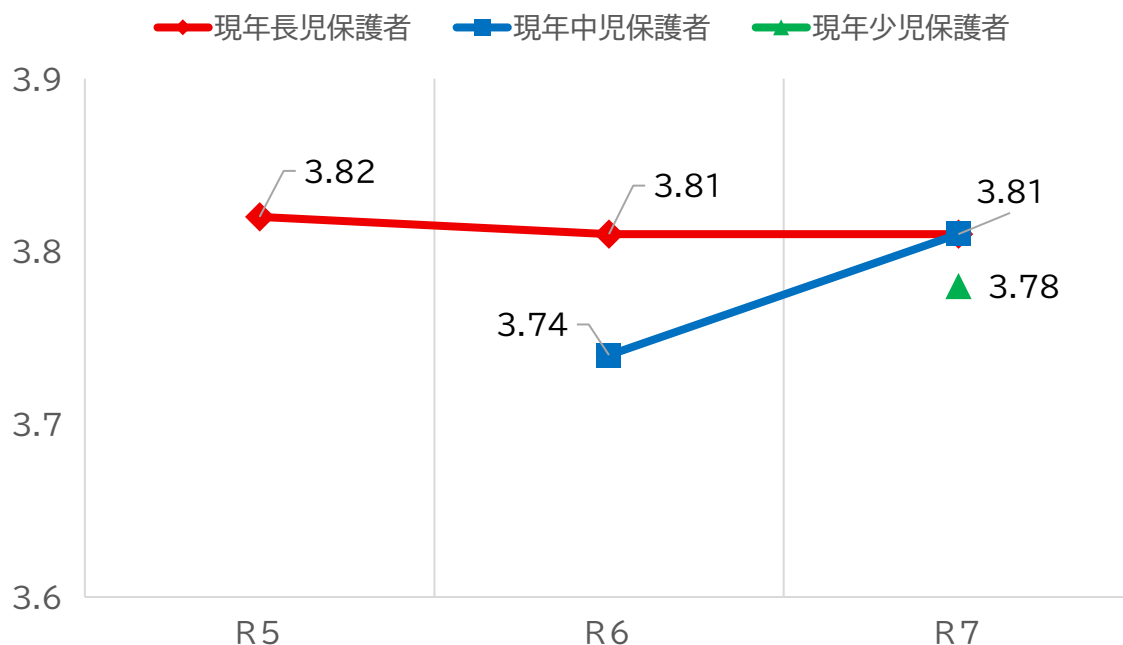


図5

図5は、同一保護者による評価の変化を示しています。例えば、赤い線は現在の年長児の保護者が、2年前、1年前、そして今年度と3回にわたる評価の結果を線で結んだものです。

現年長児保護者においては、入園から卒園までの3年間、学年や担任、クラスメートが変わるなど、園児を取り巻く環境が年々変化しても、高い評価値を維持しています。

現年中児保護者は1年前に比べ評価値が上昇しており、今後どのように変化するのか注視したいところです。

## 6 今後の課題

幼児教育の質の向上にあります。私たち教職員は今年度様々な研修会等に参加し教職員一人一人の資質や教育力の向上に努めて参りました。その学びが少しずつ当園の教育に還元されてきていますが、より一層幼児教育の質の向上に結びついていかなければと考えています。幼児教育の目的を達成するため一致団結して「ひまわりの子」の育成に取り組みます。

行事を含めた様々な活動や機会を捉えて（通して）「主体的に考え判断し、表現できる力」の基礎を育成することにあります。「活動あって学びなし」にしないためにも、今ある活動を学び（成長）の多いものに変えることこそ重要だと考えます。

私たちの真の目的は質の高い幼児教育にあります。質の高い幼児教育は、専門性、人間性、意欲を有した保育教諭から生まれます。次年度は、さらに今の活動を工夫・改善しつつ、子どもたちの成長につながる、学びの多い活動を目指してまいります。

## 7 最後に

今年度は保護者の皆様のご理解ご協力により一定程度の成果が上げられたと感じているところです。この度いただいた皆様のご意見を参考に、子どもにとって「通いたい幼稚園」、保護者にとって「通わせたい幼稚園」、職員にとって「働きがいのある幼稚園」を目指して努力を続けてまいります。アンケート（園評価）のご協力に心から感謝申し上げます。